

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-76076
(P2007-76076A)

(43) 公開日 平成19年3月29日(2007.3.29)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 3 2 B 15/08 (2006.01)	B 3 2 B 15/08 N	4 F 1 0 0
B 3 2 B 9/00 (2006.01)	B 3 2 B 9/00 Z	4 J 2 4 6
C 0 8 G 77/22 (2006.01)	C 0 8 G 77/22	4 K 0 2 2
C 2 3 C 18/28 (2006.01)	C 2 3 C 18/28	4 K 0 2 4
C 2 3 C 28/02 (2006.01)	C 2 3 C 28/02	4 K 0 4 4

審査請求 未請求 請求項の数 20 O L (全 11 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2005-264716 (P2005-264716)
(22) 出願日 平成17年9月13日(2005.9.13)

(71) 出願人 304028346
国立大学法人 香川大学
香川県高松市幸町1番1号
(74) 代理人 100080539
弁理士 高木 義輝
(72) 発明者 小川 一文
徳島県阿波市土成字寒方50-3
(72) 発明者 宮澤 聡
東京都大田区雪谷大塚町1番7号 アルプ
ス電気株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 金属被膜を有するプラスチック成形体とその製造方法およびそれらを用いた物品

(57) 【要約】

【課題】

プラスチック成形体表面に対し、シランカップリング剤によるカップリング処理を行った後、前記プラスチック成形体表面に金属被膜を形成している。

しかしながら、シランカップリング剤の塗布方法を用いると、前記プラスチック成形体基材表面に余分なシランカップリング剤が残り、残った前記シランカップリング剤が前記密着性の向上を邪魔し、適切に前記密着性を向上させることが出来ないという課題があった。

【解決手段】

プラスチック成形体基材と金属被膜間の密着性を向上させたプラスチック成形体ならびに前記プラスチック成形体を用いた物品を提供するために、プラスチック成形体基材の表面に単分子膜を形成する工程と、(b) 前記単分子膜上に、金属被膜をメッキ形成する工程を用いて、プラスチック基材の表面が基材表面に共有結合した単分子膜を介して金属被膜で被われているプラスチック成形体を提供する。

